

# 大丈夫よ！

# お母さん！

vol.34

教育コーディネーター 中西美沙子



(今回のテーマ)

## 「時の音」を聞きながら

「時の音」が聞こえる。そんな風を感じることが、時々あります。特にせわしげな歳の暮れや、お正月が近づく頃になると。その音は、過ぎ去った人々や未来の人たちの声のようです。そしてどこか懐かしげな人の姿をしているのです。

浜松市街の肴町に、小さなお寺があります。年末になると、境内で酉（とり）の市が開かれます。ダルマや熊手などの縁起ものが売られ、商売をしている人や未来に夢を託す人たちが、それらを買っているようです。「売る人」と「買う人」との声が行き交います。そしてお決まりの、ポンという「かしわ手」の景気の良い音。奥まったお寺から、お経が静かに流れてきます。このような光景は、今では片隅に置かれてしまったのか、多くの人は無関心に通り過ぎます。それに代わり、クリスマスやハロウィーンなどの華やか行事が、私たちの年の瀬の中心になりつつあります。

家族でツリーを飾り、ともにあることを喜ぶことは、日本が豊かになったからでしょう。孫の二人が、幼稚園のクリスマス会で聖劇を演じるようです。天使やマリアマの役で。イエスの一生を知らなくても、劇はとても楽しいようです。時間が過ぎて、思い出は消えてゆきます。しかし良い思い出は、心の結晶となって記憶に残ります。

家族の声、友だちとのざわめき、先生の話し声、ふとしたきっかけで思い出されるのです。もうすでにいなくなった人たちの声も。そんなときに「生きている」という安心を再び感じるのです。近頃「自閉症スペクトラム」についての啓発が、教育の場などで進められています。関係の本も多く出版されました。情報が増えることによって、子どもの特徴を神経質に見すぎる傾向もあるようです。丁寧に子どもを見ることはいいのですが、ちょっと変わった行動をとる子どもを、「アス

ベルガー」「注意欠陥多動性障害（ADHD）」と断定する人たちがいます。人は曖昧であることを不安に感じるものですが、断定することで「分かったつもり」になる危険が生まれます。それはこまやかな人間の機微が消えてゆくことです。

現代は静かに見つめることが薄くなっているのでしょうか。クリスマスに家の外に派手な飾りをつけること。狂ったように町を行くハロウィーンの群集たち。アスベルガーと「分かったつもり」で断定すること。それらから浮かんでくる思いがあります。それは静かに「時の音」を聞かない時代を、私たちが生きていくという思いです。「時の音」は心を澄ませないと響いてきません。本当は誰もが、体の中にそれをもっているのに。子どもの表情を見ると、一人ひとり違っているのが分かります。その違いを慈しんで、その子の声を聴くと、「これで良いのだ」という思いと、一緒に歩んでゆく道筋が見えてくるはずですよ。

友人の女性に「高機能アスペルガー」の息子さんを育てている人がいます。彼女の素晴らしいところは、障害を「負の要素」ではなく、自分に欠けたものを活かす場と捉えているところです。そのようにしようと彼女が思ったきっかけは単純なことでした。「田んぼを見てみると、季節が変わっていくのが分かる」。その息子さんの言葉に「生きることの意味」を、彼女は体で受け止めたのです。「時の音」とは、そのように不意にやってくるのです。



### Profile

教育コーディネーター

中西美沙子

静岡大学客員教授。文章教室「スコール」画廊「キューブブルー」などを主宰。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索

### ピアノシモでね

中西美沙子 著



著書の「ピアノシモでね」（東京書籍）は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて！こころ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。（税込1,500円）

※お求めは浜松市内の谷島屋で。